

令和2年度 事務事業総点検シート(1)
[令和元年度事務事業]

一般会計					事務事業分類	D 建設・整備事業
事務事業名	南海本線連続立体交差事業				シート番号	019-061
担当部署名	建設	局	道路	部	連続立体推進	課 評価責任者(課長名) 山路

Ⅰ. 基本情報

基本情報	1	堺市マスタープランの政策体系に基づく事業の位置付け	政策	6	まちの魅力向上と、賑わいと交流のまちづくりを進めます	後期実施計画の位置付け
			施策	3	利便性向上に向けた総合的な交通ネットワークの形成	有
	2	事業開始年度	平成 18 年度		終了(予定)年度	令和 9 年度
	3	根拠法令等(法令、条例、規則、要綱等)	都市計画法 踏切道改良促進法			
	4	関連計画	近畿ブロックにおける社会資本整備重点計画			
5	事業実施の経緯	鉄道が道路と交差する踏切では、交通渋滞や事故が発生しており、また鉄道が地域を分断し、一体的なまちづくりを妨げている。そこで、連続立体交差化とともに側道、駅前線及び駅前交通広場の整備を行うことで、踏切に起因する交通渋滞及び事故の抜本的解消をめざし、安全で円滑な交通の確保、一体的なまちづくりを推進する。 平成15年度 新規着工準備採択 平成17年度 都市計画決定 平成18年度 事業認可取得(令和9年度末完了予定)				

Ⅱ. 事業概要

事業概要	6	事業の実施主体(誰が実施しているのか。)	<input checked="" type="checkbox"/> 本庁 <input type="checkbox"/> 各区 <input type="checkbox"/> 出先機関 () <input type="checkbox"/> 市外郭団体 <input type="checkbox"/> 地域団体・市民 <input type="checkbox"/> 民間企業・NPO <input type="checkbox"/> その他 ()				
	7	事業の対象(誰を、何を対象としているのか)	市民及び道路・鉄道利用者				
	8	事業の目的(どのような状況にしたいのか)	鉄道の高架化により既存の踏切(7箇所)を除却し、交通渋滞の抜本的解消を図るとともに、鉄道による市街地の分断を解消し、市街地の一体化に貢献する。あわせて、側道、駅前線および駅前交通広場を整備することにより、安全で円滑な交通の確保、利便性の向上、一体的なまちづくりを推進する。				
	9	事業内容(スケジュール、実施方法・手段、事業ボリュームなど)	延長:約2.7km、踏切数:7箇所、概算事業費:約423億円 高架化される駅:諏訪ノ森駅、浜寺公園駅、関連側道の整備 あわせて整備する道路:(都)諏訪ノ森駅前線および駅前交通広場、(都)浜寺公園駅前線および駅前交通広場 南海本線高架事業に影響する旧駅舎の活用方法について住民と意見交換を行いながら検討を進めるとともに、令和9年度の事業完了に向けて工事を進める。 <input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 指定管理 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助金 <input checked="" type="checkbox"/> 負担金 <input type="checkbox"/> その他 ()				
10	直接実施以外の主な支出先	南海電気鉄道株式会社、業務並びに工事の受注者					

Ⅲ. 投入量

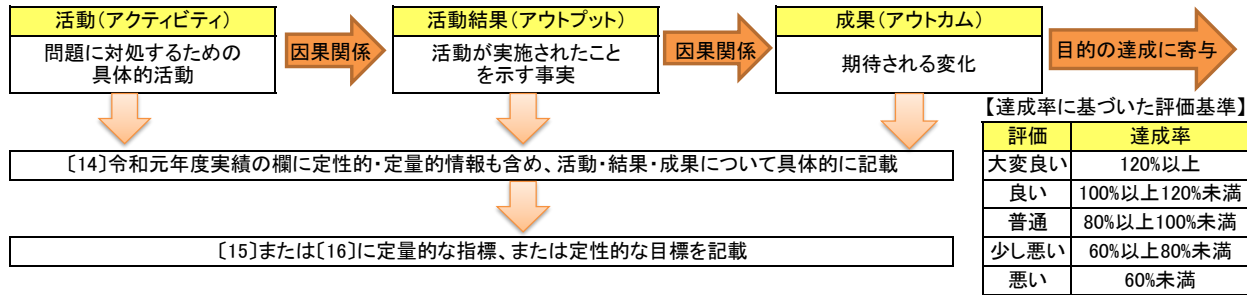
項目	単位	平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度	
		予算	決算	予算	決算	予算	決算	予算	
11 事業費 (a)	千円	4,797,459	2,286,304	4,674,003	1,429,103	4,022,386	2,108,779	3,696,094	
主な事業費内訳	用地取得・建物補償	千円	457,595	334,569	303,855	93,522	303,127	155,216	376,163
	委託業務等	千円	414,529	194,816	189,254	106,126	553,059	134,820	1,516,782
	鉄道事業者工事負担金等	千円	3,925,335	1,756,919	4,180,894	1,229,455	3,166,200	1,818,743	1,803,149
		千円							
	国・府支出金	千円	2,418,561	1,119,336	2,396,411	636,411	2,073,772	1,070,605	1,855,667
	財源内訳	千円							
	受益者負担金(使用料、手数料等)	千円							
市債	千円	1,900,500	911,200	1,808,300	512,300	1,527,000	831,700	1,429,100	
その他(事業に関連する収入等)	千円	188,000	116,260	251,740	189,429	42,774	76,808	165,037	
一般財源	千円	290,398	139,508	217,552	90,963	378,840	129,666	246,290	
12 人件費 (b)	千円	48,700	48,700	40,400	40,400	40,050	40,050	38,040	
13 総コスト(c)=(a)+(b)	千円	4,846,159	2,335,004	4,714,403	1,469,503	4,062,436	2,148,829	3,734,134	

令和2年度 事務事業総点検シート(2)

事務事業名	南海本線連続立体交差事業	シート番号	019-061
-------	--------------	-------	---------

Ⅳ. 評価(測定・分析)

ロジックモデルの考え方



事業の活動実績や成果

		令和元年度実績						
活動実績と成果	14	令和元年度は、用地取得、鉄道仮線工事、東側仮側道工事、阪堺線東側移設に伴う関連工事を進めるとともに、諏訪ノ森駅旧駅舎の曳家工事に着手した。また、地域による旧諏訪ノ森駅舎活用に関する意見交換会を開催し、まちづくりについても併せて検討を進めた。						
	15	指標名【活動指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		用地買収率	%	目標値	95	100	100	100
				実績値	94	95	99	
				達成率	99%	95%	99%	
	評価			普通	普通	普通		
	算出方法・設定根拠など		用地買収率＝買収面積／買収予定面積(事業用地)					
	16	指標名【活動指標】	単位	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	
		仮上り線線路敷設延長	km	目標値			1.1	1.4
				実績値			1.1	
達成率						100%		
評価					良い			
算出方法・設定根拠など		仮上り線総延長L=1.8km						

事業の効率性

		区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
17	①	用地買収面積	㎡	340	662	185
	②	上記①にかかる年間経費	千円	39,746	66,136	16,390
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位	116,900	99,903	88,595
	備考(算出についての説明等)					
		区 分	単 位	平成29年度	平成30年度	令和元年度
18	①					
	②	上記①にかかる年間経費	千円			
	③	単位当たり経費(②÷①×1,000円)	円/単位			
備考(算出についての説明等)						

業績の分析

19	目標を達成できた、または達成できなかった要因や効率性についての分析 (その他、関連情報に基づいた分析)
	・事業スケジュールに基づき、概ねの工事進捗を確保することができた。 ・用地買収については、任意交渉が困難となった案件を、土地収用手続きにより取得することができた。

【分析のチェックポイント】

- 事業の達成度はどうでしたか。
- 5W2Hを踏まえて、実施過程に問題はありませんでしたか。
- 資源投入は適切でしたか。
- 事前想定できない外的要因の影響はありませんでしたか。
- 有効性は高いですか。低いですか。
- 効率性は向上していますか。
- RPA等をはじめとするICTを活用する余地はありませんでしたか。
- ターゲットに応じた最適媒体の選定など、戦略的な広報ができていましたか。

令和2年度 事務事業総点検シート(3)

事務事業名	南海本線連続立体交差事業	シート番号	019-061
-------	--------------	-------	---------

《V. 点検》

＜点検の前提＞

- 新型コロナウイルス感染症の影響により、本市の財政運営は今後一層厳しくなる
- 新型コロナウイルス感染症拡大防止と社会経済活動の両立をめざす

○上記「点検の前提」を踏まえ、事業の抜本的な見直しを検討するもの。

⇒

確認

コロナ禍を踏まえた点検（必要性・有効性・効率性）	20	本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を廃止できないか。	事業廃止の可能性 <input type="checkbox"/> 廃止できる <input checked="" type="checkbox"/> 廃止できない	廃止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 ・踏切に起因する交通渋滞及び事故の抜本的解消ができない。 ・側道、駅前線および駅前交通広場を整備できず、安全で円滑な交通の確保、利便性の向上を図ることができない。
	21	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、当該事業を休止(延期)できないか。	事業休止の可能性 <input type="checkbox"/> 休止(延期)できる <input checked="" type="checkbox"/> 休止(延期)できない	休止した場合に市民生活等に及ぼす具体的な影響 ・駅施設、道路形態など工事途中の状態で使用を継続することになり、地域住民に不便が生じる。
	22	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 本市財政運営が厳しくなることが想定される中、事業規模を縮小するなど、コスト縮減を図ることができないか。	コストの縮減 <input type="checkbox"/> 一部廃止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 一部休止しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 規模等を縮小しコスト縮減できる <input type="checkbox"/> 事業手法等を改善しコスト縮減できる <input checked="" type="checkbox"/> 縮減できない	縮減できる場合は具体的な縮減内容、できない場合はその理由 ・現在、全事業区間において仮線工事等を実施中で事業規模の縮小、手法の見直しは不可能である。工事実施にあたっては、コスト縮減に努める。
	23	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 社会経済活動の維持・回復のほか、3密を避けるなどの市民や民間の活動変容への対応に向け、実施手法を改善する必要がないか。	事業手法の適切性 <input type="checkbox"/> 改善する必要がある <input checked="" type="checkbox"/> 改善する必要がない <input type="checkbox"/> 既に対応できている	改善する場合は改善策、その他は理由 ・連続立体交差事業は、都市計画法に基づき事業認可を取得し、地方公共団体と鉄道事業者が実施する事業であるため。
	24	(20で廃止できるを選択しなかった場合) 効果的・効率的な事業の実施に向け、右に掲げる視点から改善できないか。	効果的・効率的な事業実施(以下の観点で、改善する(または改善済)場合は■、改善しない(改善余地がない場合を含む)場合は□) ① <input checked="" type="checkbox"/> 公民連携の推進 ② <input checked="" type="checkbox"/> ICT活用による効率化 ③ <input checked="" type="checkbox"/> 他部局との適切な連携・役割分担 関係部署名 (道路計画課) 関連事業名 (常盤浜寺線、諏訪森神野線) ④ <input checked="" type="checkbox"/> 国・府等との適切な役割分担・連携 ⑤ <input checked="" type="checkbox"/> 他政令市等との比較におけるサービス水準の均衡 ⑥ <input type="checkbox"/> その他()	理由・説明 ①鉄道事業者との協定や民間委託により、事業を効率的に推進している。 ②事業の進捗情報をホームページに公表し、市民に情報提供している。 ③鉄道の高架化に合わせて、鉄道を横断する都市計画道路を整備する方針で、道路計画課と随時調整し、事業を推進している。 ④事業区間に高石市を含むため、大阪府、高石市と連携して事業を推進している。 ⑤「都市における道路と鉄道との連続立体交差化に関する要綱」に基づき実施しており、他都市とのサービス水準の均衡が図られている。令和2年度全国で48箇所実施中。
25	これまでの点検を踏まえ、今後の事業のあり方についてどのように考えるか。	事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止または延期 <input type="checkbox"/> 事業を縮小 <input type="checkbox"/> 改善して継続 <input checked="" type="checkbox"/> 現状を継続 <input type="checkbox"/> 事業を拡充 公金投入の方向性 <input type="checkbox"/> ゼロ <input type="checkbox"/> 縮小 <input checked="" type="checkbox"/> 現状維持 <input type="checkbox"/> 拡大	実施年度 <input type="checkbox"/> 令和2年度 <input type="checkbox"/> 令和3年度 <input type="checkbox"/> 令和4年度以降	
		所見 ・進捗状況にあわせて鉄道事業者との調整を十分に行っているが、今後さらに事業推進が図られるよう創意工夫を行い、事業に取り組んでいく。		